

医師臨床研修のご案内



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

高山赤十字病院

臨床研修プログラムの理念・基本方針

理 念

医師としての人格を涵養し、将来の専門性にかかわらず、医学・医療の社会的ニーズを認識しつつ、日常診療で頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、プライマリ・ケアの基本的な診療能力（態度、技能、知識）を身につける。

基本方針

- ・ **プライマリ・ケア**
さまざまな疾患を有する患者さんが受診していることより、common diseaseのプライマリ・ケアを幅広く経験し、医師としての基礎を築く。
- ・ **地域医療**
地域の基幹病院として初期（1次）から3次までの救急医療を担当しており、住民が安心して生活できるよう、地域の病院、診療所、介護施設などと連携した医療を実践する。
- ・ **指導体制**
長年の臨床研修の経験をもとに、診療間の垣根がなく、熱意ある指導医の下、実践を重視した研修を行い、2年間の初期臨床研修終了時にはどの医療現場にでも対応できる医師を育てる。



目 次

病院長からのメッセージ	1	研修医募集要項	15
指導医からのメッセージ	2	プログラム責任者・指導医・協力施設	16
先輩研修医からのメッセージ	3	後期臨床研修	18
臨床研修プログラム	4	地域医療研修の協力施設として	20
研修医1年目	6	病院見学・実習	21
研修医2年目	10	病院概要	22
臨床研修Q & A	13		

病院長からのメッセージ

医学生諸君へ！

高山赤十字病院は岐阜県北部の地域中核病院として、創立114周年を迎え、地域の信頼を得ています。

当院は昭和56年に地域医療の充実のため臨床研修病院に指定され、主として自治医大卒業医師の臨床研修を受け入れてきました。平成16年から必修になった初期臨床研修制度では今までに38名の研修医が巣立ちました。

当院の地域医療でのミッションは、急性期医療と高度医療を行うことと考えております。このため救命救急センターを併設し地域の救急を24時間態勢で行い、地域の信頼を得ています。さらに急性期患者を在宅等へ切れ目の無い移行を目指し、回復期リハビリ病棟、老人保健施設も併設し、超急性期から慢性疾患、終末期、介護、福祉まで幅広く医療を行っており、発症時からの一貫したプライマリ・ケア研修ができます。

救急医療では、地域の初期救急から3次救急までを担い、救命救急センター受診患者は年間約16,000人、救急車搬送台数は年間約2,800件で、症例は豊富です。研修医は指導医の下、救命救急センター副当直を担当し、あらゆる種類の救急疾患を自然に修練することが可能です。病棟において研修中は熱意ある指導医と共に患者を担当し、きめ細かい指導を心がけています。指導医に熱意ある医師が多く、またロールモデルになり、頼りになる経験豊かな医師たちです。

また、当院では各診療科の専門医を目指す研修医の皆さんのために、後期臨床研修制度を設け、初期研修から専門医まで一貫した研修を目指しています。今後も研修環境の改善、指導医の充実など研修の質が上がるよう努力していきます。

当院は僻地の病院ですが、幸いにも研修医の出身大学は、北は北海道、南は沖縄まで全国的です。また、どの研修医も地域医療に大変熱心であり、2年間の初期研修終了時には十分な経験と医師としての誇りを持っており、どこの病院においても即戦力になる人材になっています。今後も熱意ある研修医が当院に来てくれることを希望しています。

飛騨高山とその周辺は世界的な観光地です。周囲には山があり、温泉がありさらに皆さんの医療を待つ人がいます。豊かな四季とこまやかな人情の機微を、患者さんと共有しながら、医師としての第一歩を飛騨高山の地で踏み出してください。



病院長 棚橋 忍

指導医からのメッセージ

地域に根差した救急医療を…

高山は、岐阜県山間部北アルプスに囲まれた飛騨地区の中心都市です。飛騨地域の人口は約16万人ですが、年間400万人の観光客が訪れる観光都市のひとつです。東京都の約2倍の広大な面積を有し、当院はこの中の唯一の救命救急センターを有する3次医療機関であるため、この地域の重症外傷を含めさまざまな症例が当院に集まります。

私自身は外科医であるとともに、救急医学会指導医として約5年間名古屋第二赤十字病院で救急医療、研修医教育、国際医療救援を行ってきました。都会では患者さんの「たらい回し」というのが問題になりますが、この地域では当院が「最後の砦」として全ての救急患者を受け入れています。もちろん全疾患を当院で完結できるわけではありませんので、岐阜大学高度救命救急センターと連携を取ってドクターヘリを活用し、高度先進医療にも対応しています。「都会の救急医療」とは違った、救急隊との顔の見える関係と患者さんへの誠意ある医療の提供を常に心掛けています。

赤十字病院は地域に根差した救急医療、災害救護を行うという点で、他の一般病院と異なります。私自身は、阪神大震災の救護活動以来、スーダン、アフガニスタン、パキスタンなどでの国際医療救援を長年行っています。研修医の先生たちには、国内災害救護に参加していただくと医の原点を見つめる良い機会となります。さらに、興味のある方には実務経験を積んでいただき国際救援にもぜひ羽ばたいていただきたいと思います。当院には、内科・外科を含め専門科に細分化されていない分、救急医療を通して広い研修が可能です。

平成16年度から研修医が自主的に毎週朝、体験した症例をもとに勉強会を開催しています。プレゼンテーションをすることで勉強し、お互いに知識経験を共有するとともに、上級医が教えていく「屋根瓦方式」を継続しています。我々指導医も勉強会に参加することによりアドバイスとフィードバックを図っています。また、「臨床研修セミナー in 高山」を年に数回開催しています。今年度も予定していますので、ぜひ参加してみてください。

副院長・臨床研修管理副委員長 白子 隆志



先輩研修医からのメッセージ

都市部の大型病院を避け、敢えて僻地の救急病院に飛び込みました。当院は3次救命センターを併設する飛騨地区最大の医療機関で、common diseaseから重症、難病までありとあらゆる疾患が選別されずに当院に集約します。救急については原則として24時間全患者受け入れで対応しており、まさに医療の最前線を体験することが可能です。臨床研修の歴史も古く、臨床研修に対しても協力的な方が多いため、初期研修医としては非常に居心地がよい環境です。コメディカルの方々も早いうちから研修医を認知してくださり、彼らに助けられた経験は数え切れません。



指導医の下、気管支鏡検査

内科研修では研修医は主治医として患者さんの診療に当たることとなります。一般内科研修6ヶ月なので、ある程度経過が長い患者さん、複数科にまたがる疾患を有する患者さんも入院から退院までを責任を持って診ることが可能であることが大きな利点です。慣れてくれば所属チーム以外の症例についても各専門分野の先生より紹介いただけるため、各種疾患を経験できます。

外科・麻酔科研修では主に副主治医として診療に当たり、手術にも麻酔にも積極的に加わらせていただきました。研修中に2度の学会発表を行わせていただいたのもよい経験です。脳神経外科、整形外科研修では頭部外傷や脳梗塞、脳出血、くも膜下出血の初期対応、外傷処置、創傷処置についても経験を積むことができ、研修終了後には外科治療法のみならず外科手技、麻酔手技について自分の技術の向上を実感しました。

救急当直業務では外来初診、救急車対応、時には外国人観光客に対する英語問診など、ありとあらゆる初診、初期対応を経験しまくるうちに、半年も経てば代表的な救急疾患を網羅し、救急部の一戦力としてなくてはならない存在に成長していることに気づきます。上級医の先生も教育に熱心な先生が多く、お忙しいなか快くコンサルトやご指導を引き受けてくださるため、安心して研修ができます。

新臨床研修制度が開始して以来、研修医が都会の大型病院、有名病院に集中する傾向があるようです。しかし、研修医1年目から自分が一人の戦力であるとの責任感を持って診療に当たることができるのは地域の病院ならではの醍醐味です。厳しい状況の中、地域の医療を支えるべく朝早くから夜遅くまで現場で奮闘される先生方の姿を医師としての最初の1年目に目に焼き付けることができたのは大きな財産であると感じています。

なお飛騨高山は日本を代表する観光地であり、お洒落なお店や美味しい料理店も数多く、街の姿、四季折々の変化には本当に美しいものがあります。ショッピングセンターや大型量販店もあり、(雪以外に)特に生活に不便さを感じることはありませんでした。オフも街歩きに温泉巡りにスキーに登山にドライブにと充実した生活が待っています。地域医療に興味がある方も、将来的に高度先進医療を目指される方も、まずは病院見学に来てください。

K.Y.

臨床研修プログラム



特 徴

- 当院は飛騨地域における中核病院として日常の医療活動はいうまでもなく、地域の1次より3次救急医療までを担っています。そのため超急性期から慢性疾患、終末期医療、介護・福祉まで含めた幅広いプライマリ・ケアを修得できます。
- 研修医は指導医とペアで患者を担当し、指導医は親切な指導を心がけています。自治医大卒業医師の臨床研修を長く行ってきたことから、2年間の研修後には診療所において独り立ちできるレベルの医師を育てます。
- 内科研修は、様々な症例の診断・治療を6ヶ月間、指導医の下で主治医として繰り返し経験します。急性期から慢性期、終末期、在宅医療と一貫した研修となっています。
- 救急科研修では、脳外科、整形外科、麻酔科にて、救急対応を研修します。また、救急車同乗研修も行いますが、これはプレホスピタルの現場がわかると研修医から好評です。
- 年間の救急車搬送数は約2,800件で、研修医は日当直の副直として救急患者に対応します。副直時では各診療科の指導医の下で、メジャーな科からマイナーな科まで質の高い幅広いプライマリ・ケア研修を行います。
- 地域医療研修（2ヶ月）では、僻地の病院・診療所、精神病院などで研修を行い、地域に根ざした医療を修得します。
- BLS、ACLS、JPTEC、ICLSなどの資格取得に対して積極的な支援をしています。また、年間を通じて救急に関する勉強会が非常に多く開催され、学習機会が多いのが特徴の一つです。
- 地域完結型の医療を提供する病院として、臨床研修の基本的理念であるcommon diseaseを幅広く経験できるよう以下の科目を必修としています。
 - ・外科 3ヶ月間
 - ・小児・周産期 2ヶ月
- 研修医のための勉強会の他、院内の各部署にて盛んに勉強会が開催されていて気軽に参加できます。毎週開催する研修医による自主勉強会では、通常遭遇する病態・疾患について自分で題材を探し、勉強したことをプレゼンし、他の研修医、指導医と活発な議論を行っています。

スケジュール

1年目

内科系 (循環器内科含む)	救急科			外科 (麻酔含む)
	脳神経外科	整形外科	麻酔科	

《内科：6ヶ月》主治医として患者を受け持ち、総合的な研修を行う

《救急科：3ヶ月》脳神経外科（脳卒中）・整形外科・麻酔科にて救急対応を研修する

《外科：3ヶ月》

2年目

小児・周産期	地域医療 (精神科含む)	選択科
--------	-----------------	-----

《小児・周産期：2ヶ月》

《地域医療：2ヶ月》

- ・ 過疎地の病院の現状を理解する（2週）…………… 国保飛騨市民病院
- ・ 地域の精神医療の現場を経験する（2週）…………… 医療法人生仁会須田病院
- ・ 診療所の医療を経験し、病診連携について理解する（2週）
…………… 国保診療所（朝日・清見・久々野・荘川・白川）
あらたに整形外科内科・丹生川診療所・高桑内科クリニック・
陽光診療所・水口医院
- ・ 在宅医療を研修する（1週）…………… 高山赤十字病院
- ・ 地域の救急医療の現場を研修する（1年目に救急車同乗 1週）

《自由選択科：8ヶ月》

- ・ 全診療科 …………… 高山赤十字病院・名古屋第二赤十字病院・鳥取赤十字病院
- ・ 精神科 …………… 医療法人生仁会須田病院
- ・ 地域医療 …………… 国保飛騨市民病院・診療所（朝日・清見・久々野・荘川・白川）
あらたに整形外科内科・丹生川診療所・高桑内科クリニック・
陽光診療所・水口医院
- ・ 地域保健 …………… 飛騨保健所（1週間）・老人保健施設 はなさと

*2年を通じて献血研修を行う…………… 岐阜県赤十字血液センター

*海外研修可：コロラド大学病院（デンバー 2週間）



研修医 1 年目



約2週間のオリエンテーション後、内科、救急、外科に分かれてローテートを開始します。
9月にはスピリチュアル研修（1泊）に参加します。その後新しい科での研修を開始。
救急部所属期間には整形外科、脳神経外科、麻酔科に所属して、各1ヶ月主に救急対応を研修します。

内科系 (循環器内科含む)	救急科			外科 (麻酔含む)
	脳神経外科	整形外科	麻酔科	

内科研修（6ヶ月）

内科での研修期間中は担当患者さんを入院から退院まで主治医として受け持ちます。プレッシャーもありましたが、様々な方々に助けられどうにか終了。何かしてくれるのを待つより、自分に何ができるのか考えます。困ったときは気軽に相談すれば、スタッフの皆さんが快く力を貸してくれます。

研修医は週1回、内科全分野の医師の前で症例提示を行い（研修医症例カンファレンス）、適宜指導を受けます。

研修医 H.N.



主治医として病棟回診



カンファレンス中



注射練習

当院研修医の出身大学

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
京都大学 富山大学 帝京大学 愛知医科	岐阜大学 京都大学 東京女子医科 札幌医科 産業医科	京都大学	東京大学 岐阜大学	岐阜大学 富山大学 自治医科	岐阜大学 新潟大学 自治医科
計4名	計6名	計1名	計2名	計6名	計5名

外科（3ヶ月）

外科研修では指導医直属の副主治医として診療に当たります。実際に第一助手、第二助手として手術に加わり、low risk症例であれば指導医の指導の下、執刀医として執刀する機会もあるでしょう。救急車対応が多い点も、外科研修の特徴です。



救急科研修（3ヶ月）

整形外科、脳神経外科、麻酔科に各1ヶ月所属し、救急対応を中心とする研修を行います。

地域の3次救急病院のため、救急車搬送数は多く多様な救急症例を経験できます。



救急車同乗研修

救急車に同乗して、プレホスピタルの現場について1週間研修します。

スピリチュアル研修

研修開始から約半年が経過した時期に、1泊2日のスピリチュアル研修を実施します。



救急外来 ・ 救命救急センター

当院救命救急センターは、1992年12月に飛騨地域唯一の第3次救急施設として開設されました。対象は飛騨地域16万人であり、第1次から第3次までの救急症例に対して24時間全受け入れ体制で対応しています。

平成24年度救急外来受診者は15,750名、年間救急車受け入れ数は2,832台。疾病の中では脳血管障害と急性心筋梗塞症例が圧倒的に多数を占めています。

重症救急症例でかつ特殊治療を要する症例は、ヘリコプターまたは救急車で高次救急機関へと搬送を行っています。また、災害時多数傷病者搬送時や重症症例などで救急隊の要請があった場合、医師・看護師が現場へ駆けつけ、現場活動後搬送することも行っています。



BLS ・ ACLS ・ JPTEC ・ ICLSは全員取得…

臨床の現場で出会う問題のすべてをEBMや教科書に書いてあることで解決できるわけではなく、経験から得るものや上級医から指導を受けて身につける知識なども重要になってきます。当院では研修医も指導医の下、主治医として多くの経験を積むOn the Job Training（現場での研修）を早期から行っています。また、Off the Job Training（仕事と離れて行う研修）にも力を入れています。当地域を対象としたICLSコースやJPTEC（病院前外傷診療）コース、院内のJATEC（外傷初期診療）ミニコース、ISLS（脳卒中初期診療）ミニコース、災害時のトリアージといったシミュレーション、Nutrition Support Team (NST) や Respiratory Support Team (RST) などの活動が盛んに行われ、研修医の参加を歓迎し研修医やスタッフの教育に力を入れています。



今後はDifficult Airway Management (DAM) ミニコースやFundamental Critical Care Support (FCCS) ミニコースの開催も予定されています。

救急外来

1年目研修医は着任後2ヶ月間、2年目研修医と共に救急外来診療（副々直）を行い、6月より月平均4回程度、日当直の副直として救急外来での診療に従事します。

ウォークイン受診の患者さんに対しては原則副直研修医がファーストタッチを行い、救急車搬送の患者さんは内科系・外科系指導医と共同で診察することになります。いずれの場合も指導医に確実にコンサルトできる環境が整っており、研修医が独りで判断をしなければいけない場面はありません。指導医の指導の下、研修医がリーダーとして救急診療に当たる機会が多いのも特徴です。科を問わず全科にまたがる初期診療を2年間継続して行うことで、幅広い領域にわたるプライマリ・ケア力が身につくこととなるでしょう。



救急外来・副直

当院では、一般的にみられる市中疾患から高度な医療を要する重症な疾患まで幅広い疾患を経験することができます。時には山間部の町村から1時間以上もかけて救急搬送されることもあり、僻地医療を担う当院の責任の重さを感じます。

4月、1年目研修医は副々直医として2年目研修医のアドバイスを受けながら見学・診療を行います。6月からはいよいよ副直医として活躍します。初めは緊張と不安でいっぱいですが、いつでも上級医にコンサルトできるので心配はいりません。しかし、まずは自分で考えて問診・身体所見をとり、鑑別診断を挙げ、必要な検査を行っていくことが重要であると思います。その後で上級医が不足している部分の補足や、誤った考えなどを修正してくださるので、とても勉強になります。上級医とマンツーマンで当直を行うため、各科の医師も研修医のことをよく知ってくださり、研修医が少人数である当院の利点であると思います。

正直なところ、眠れない夜や翌日の業務がしんどいこともありますが、毎回新しい知識を得ることができ、励みにもなります。いつの間にか重症な患者さんを見逃さない勘が養われてきます。

また、自分が当直で経験した症例を提示・検討する研修医勉強会も行われています。勉強会で知った症例に自分も遭遇し、ほっとしたこともあります。救急外来は、様々な疾患を経験し、初期対応を身に付ける貴重な場だと思っています。

研修医 A.K.



研修医 2 年目



2年目は小児・周産期2ヶ月、地域医療2ヶ月、自由選択科8ヶ月となります。各自の進路、希望に合わせてローテート表を組みます。ローテートは、2年目の後半で変更が可能です。希望の方は海外（2週）、名古屋第二赤十字病院、鳥取赤十字病院などでも研修できます。

小児・ 周産期	地域医療 (精神科含む)	選択科
------------	-----------------	-----



カンファレンス中

小児・周産期研修（2ヶ月）

朝はNICUの赤ちゃんの採血と担当する患者さんの診察。赤ちゃんって本当にかわいいです。それが終わると小児科病棟の担当患者さんの回診と小児科病棟に入院している子供たちの採血。小児科外来の子供たちのルート確保や採血も研修医の担当ですが、ベテラン看護師さんたちがうまくリードしてくれるので、安心してできます。この日は午後に緊急帝王切開が入りました。赤ちゃんが元気に泣いてくれるとほっとします。手術が終われば小児科外来に時間外で受診する子供の診察も担当。common diseaseが多いです。困ったら上級医に相談です。

研修医 K.I.



未熟児室にて

地域医療研修（2ヶ月）

過疎地の病院・地域の精神病院・僻地診療所などで地域医療を経験し、病診連携について学びます。

思い出に残る診療所研修

6月初旬に地域医療研修にて、荘川診療所、丹生川診療所を回りました。いずれも山や畑に囲まれたこれぞ僻地中の僻地、地域唯一の医療機関として診療所での診療に加えて、山を越え峠を越えた往診から地域の福祉計画、医療計画作りまで、地域に根付き、たった一人で地域を支える先生方の姿、そして責任感に大きな感銘を受けました。



研修医 K.Y.

選択科研修（8ヶ月）（名古屋第二赤十字病院・鳥取赤十字病院）

当院の全診療科の他、名古屋第二赤十字病院・鳥取赤十字病院（1ヶ月）でも研修が可能です。

名古屋第二赤十字病院 放射線科研修

放射線科研修のため名古屋第二赤十字病院へ1ヶ月行かせていただきました。読影をメインでIVRの見学もさせていただきました。一日中読影をし続けるという機会はなかなかなく、とてもいい勉強になりました。先生方もみな優しく温厚でとても居心地がよかったです。また、他院の研修医とかかわれるのはとてもいい刺激になります。いろいろな科やいろいろな病院で学ぶことでぜひ有意義な研修にしてください。

研修医 H.N.

初期評価と修了認定

各科にはそれぞれ研修の到達目標があり、研修修了の都度、自己評価、指導医らによる評価を行います。また、2年目の9月には、2年間の総合的な研修到達について評価・指導が行われ、2月の最終評価を行います。それらを元に、臨床研修管理委員会が修了認定を行います。

図書室・図書閲覧室・地域連携研究室

図書の貸出、閲覧が可能です。また、パソコンを合計8台設置しており、インターネットも利用できます。病院にない文献は、無料で取寄せすることができます。

利用できるデータベース：医中誌WEB、Medline with full Text、Dyna Med、Pub Med、コクランライブラリー、他



図書室



図書閲覧室



地域連携研究室

研修医のための勉強会

研修医オリエンテーション	
毎週火曜朝 研修医自主勉強会	
臨床研修管理委員会主催セミナー 「臨床研修セミナー in 高山」	
各科指導医による救急勉強会	
整形外科救急疾患	
小児科救急疾患	
脳神経外科救急疾患	
心電図の読み方	
循環器救急疾患	
消化器救急疾患（内科系）	
呼吸器救急疾患	
耳鼻咽喉科救急疾患	
急性腹症（外科系）	
外傷診療	
泌尿器科救急疾患	
眼科救急疾患	
皮膚科疾患	
JATEC勉強会	

CPC検討会	
内科外科合同症例検討会	
毎週水曜	内科外科合同症例検討会
内科系	
毎週火曜	内科症例検討会 内科研修医症例検討会 内科抄読会
外科系	
毎週月曜	外科術前カンファレンス
隔週木曜	外科抄読会
各種イベント	
院内合同研修発表会	
救命救急センターによる救急勉強会	
飛騨臨床医会、他多数	



平成24年度 第1回 臨床研修セミナー in 高山

●開催日時：平成24年6月22日（金） 午後6時～午後7時
●開催場所：高山赤十字病院 小講堂
●対象者： 研修医、医師、医学生、その他医療職員
●講師： 愛知医科大学 腎臓・リウマチ膠原病内科 教授 今井裕一先生

◆プログラム◆

17:20～17:40 受付
17:50 開会あいさつ

18:00～19:00 講演
『救急で役立つ水・電解質の知識』

19:00～20:00 意見交換会（3階食堂にて）

今井裕一（イマイヒロカズ）先生紹介
『輪流ができる、好きになる』（羊土社：2010/06/25出版） 著者紹介より
1977年3月秋田大学医学部卒業
1977年4月から1979年3月まで虎の門病院で初期研修
1979年4月から2002年12月まで秋田大学医学部第三内科
（1985年4月から1986年12月まで米田キヤス州立大学ヒューストン校に留学）
2003年1月から2009年6月まで愛知医科大学腎臓・膠原病内科教授
2009年7月から腎臓・リウマチ膠原病内科に名称変更

若手医師・研修医のためのセミナーですが、内容に興味をお持ちの医療従事者であればどなたでも参加できます。気軽にお申しください。

●参加費：無 料
お車で来られる方は、病院駐車場をご利用いただき、駐車券を会場受付までお持ちください。

●申込・問合せ先：
以下を明記の上、メールまたはFAXにてお申しください。
氏名、施設名、職名、メールアドレス、電話番号

宛先：高山赤十字病院臨床研修事務局 E-mail: dr_kenshu@takayama.jrc.or.jp
FAX:0577-32-6802（直通） TEL:0577-32-1111

主催：高山赤十字病院 後援：岐阜県医師会 健康コンソーシアム



平成24年度 第7回 臨床研修セミナー in 高山

●開催日時：平成24年11月30日（金） 午後6時～午後7時30分
●開催場所：高山赤十字病院 小講堂（3階）
●対象者： 研修医、指導医
●講師： 岐阜大学医学部 産婦人科 教授 森重健一郎先生

◆プログラム◆

18:00～19:30 【小講堂】
『ジェネラリストに知ってほしい産婦人科』

20:00～21:30
意見交換会

●参加費：無 料
お車で来られる方は、病院駐車場をご利用いただき、駐車券を会場受付までお持ちください。

●申込・問合せ先：
以下を明記の上、メールまたはFAXにてお申しください。
氏名、施設名、職名、メールアドレス、電話番号

宛先：高山赤十字病院臨床研修事務局 E-mail: dr_kenshu@takayama.jrc.or.jp
FAX:0577-32-6802（直通） TEL:0577-32-1111

主催：高山赤十字病院 後援：岐阜県医師会 健康コンソーシアム

臨床研修Q & A

Q：各診療科では十分な指導が受けられますか？

指導医についてマンツーマン体制の指導を受けます。熱意のある研修医には、指導医の下で、多くのチャンスが与えられます。診療科同士の垣根が低く、他科の医師にも気軽にコンサルトしやすい雰囲気です。

Q：日常における研修が雑用に追われるということはありませんか？

主治医、副主治医として診療を行い、一部の大規模病院と比較して診療補助的な雑用は少なく、医師としての研修業務に集中できます。地方病院は、都会に比べてコメディカルスタッフが優秀なのが特徴です。

Q：一日の勤務時間はどのようなものですか？休日、休暇についても教えてください。

平日の就業時間は、朝8時半から17時ですが、実際には朝早目に来て、就業後も病院に残る研修医が多いようです。担当患者の急変時、緊急処置時などには勤務時間外であっても呼び出しがあります。毎週火曜朝には研修医の自主勉強会を開催しています。受持患者がいる場合は土・日も回診をしますが、その後はフリーです。原則チーム医療なので、交代で完全オフも与えられます。有給休暇のほかに実質1週間の夏休みが取れます。

Q：職場の人間関係、雰囲気はどうですか？

指導医はもちろん、コメディカルスタッフ、そして患者さんも研修医に対して非常に温かい心遣いがあります。研修医でも一人のドクターとして対応してくれます。各科・職種を超えた宴会やスポーツ大会も頻繁に開催されており、楽しい雰囲気です。

Q：研修医の出身大学は？

全国各地から国立私立を問わず集まっています。研修医の多くが一部の大学出身者で占められる病院と異なり、バックグラウンドの違う研修医たちと研修を行うことで得るものは多いでしょう。

Q：住環境はどうなっていますか？

研修医の住居は病院の目の前にあり（病院まで徒歩1分程度）、車庫付き、家賃は半額補助あり。コンビニ、大型スーパー、家電量販店へのアクセスもよく、観光地である「古い街並み」へも徒歩10分程度です。

Q：オフの過ごし方としては？

飛騨高山は日本有数の観光地です。休日は観光スポットを散策し、街並みを眺めながら過ごすのもいいでしょう。飛騨牛、高山ラーメン、蕎麦、新鮮な野菜、漬物、富山湾からの新鮮な魚介類、そして地酒にと豊かな食文化を誇る高山はグルメ派のあなたもきっと満足。少し足を延ばせば世界文化遺産である白川郷や五箇山、上高地、松本、金沢、富山もすぐそこです。また、高山は乗鞍岳、焼岳、槍ヶ岳、穂高連峰、白山と名山に囲まれた自然環境豊かな土地柄です。車で1時間も走れば下呂温泉、飛騨小坂温泉郷、奥飛騨温泉郷といった有数の名湯秘湯があり、オフは登山にドライブに温泉巡りに繰り出す研修医も多いようです。車で1時間以内の範囲に大型スキー場も複数あり、冬はウィンタースポーツに燃える者もいます。自然と文化、食に恵まれた高山での2年の生活は、オフでも大きな思い出になるはずですよ。



平成24年7月21日
高山赤十字病院救護班夏季訓練

平成24年9月9日 高山市総合防災訓練



中日新聞 2011年4月23日(土)

町医者のような存在に

飛騨地方で三月末、医師臨床研修制度による初期臨床研修を六人が終えた。前年度より二人少なく、人手不足に悩む地方へ研修医を呼び込むのは難しい状況にある。その中、高山赤十字病院(高山市)では内科と産科の二人が三年目以降の後期研修医として残り、さら

後期研修医 **鷹尾さん**

専門以外の「主体的に学べ楽しい」科も経験

高山赤十字病院で経験を積んでいる鷹尾賢さん＝高山市の同院で

に分かれ、看護師や医師任せることができるようの間にも漬があるが、「こになつてきた」と手応えができて楽しいと話す。同院では、内科以外にも産科や小児科の診療、相談したいという人のために、東日本大震災の被災地、宮城県石巻市へ救護班と

に経験を積んでいる。そ別の病院で受ける「たすの一人、内科の鷹尾賢さん」に話を聞いた。鷹尾さんは海津市出身で、岐阜大医学部を卒業し、初期研修の一年目を岐阜大医学部付属病院で終えた。二年目の研修を、大病院だと科ごとで、岐阜大医学部を卒業し、初期研修の一年目を「実習を受け、幅広い分野で主体的に学べると感」を、必要なら専門医に

現地に赴いたのは震度6強の余震があった直後で、電気が一部で止まった。電気が一部で止まった。電気が一部で止まった。電気が一部で止まった。

して派遣され、薬を処方しながら避難所を回った。

2011.4.23
中日新聞

(白山泉)

臨床研修医 募集要項

研修医の定員	7 名
処 遇	<p>身 分：研修医（正職員に準ずる）</p> <p>給与（医師確保手当を含む・税込み）：</p> <p style="padding-left: 40px;">1 年目 450,000円／月</p> <p style="padding-left: 40px;">2 年目 500,000円／月</p> <p style="padding-left: 40px;">日当直手当 13,150円／回（副直）</p> <p style="padding-left: 40px;">その他手当 扶養手当・住宅手当（医師住宅あり） 通勤手当・時間外手当</p> <p>賞 与：1 年目 610,500円</p> <p style="padding-left: 40px;">2 年目 1,055,500円</p> <p>有給休暇：年間 21日以内</p> <p style="padding-left: 40px;">別に夏期休暇あり</p> <p>福利厚生：健康保険・厚生年金保険・雇用保険・労災保険</p>
選 抜 方 法	マッチング公募および面接
必 要 な 書 類	<ol style="list-style-type: none"> 1. 履歴書（ホームページよりダウンロードできます） 2. 卒業見込み証明書 3. 成績証明書 4. 健康診断書 5. 推薦書（医学部長、医科大学学長）
試 験 日（面接）	<p>平成 25 年 7 月 29 日（月）、8 月 5 日（月）、12 日（月）、 19 日（月）、26 日（月）に実施。</p> <p>上記日程で都合の悪い方は、ご相談ください。</p> <p>定員に満たない場合は二次募集を行います。</p>
応 募 締 切 日	平成 25 年 8 月 30 日（金）
応 募 先	〒506-8550 岐阜県高山市天満町3丁目11番地 高山赤十字病院 総務課 臨床研修担当
お 問 合 せ	<p>研修内容全般について：臨床研修管理副委員長 白子 隆志</p> <p>募集について：総務課 臨床研修担当（田中）</p> <p>TEL：0577-32-1111（内線3361） FAX：0577-32-6802</p> <p>E-mail：dr_kenshu@takayama.jrc.or.jp</p>

プログラム責任者、指導責任者、協力施設

プログラム責任者 白子 隆志（副院長）

研修責任者

科名	氏名	役職名
内科	西尾 優	副院長・呼吸器科部長
循環器内科	堀部 永俊	循環器内科部長
外科・麻酔科	白子 隆志	副院長・外科部長・麻酔科部長・救命救急センター長
救急科	加藤 雅康	救急部長
地域医療	棚橋 忍	病院長
小児科	山岸 篤至	小児科部長
産婦人科	脇田 勝次	産婦人科部長
精神科	加藤 秀明	須田病院院長
整形外科	前田 雅人	整形外科部長・リハビリテーション科部長・中央手術部長
脳神経外科	竹中 勝信	脳神経外科部長・放射線科部長
泌尿器科	柚原 一哉	泌尿器科部長
皮膚科	市橋 直樹	皮膚科部長
耳鼻咽喉科	安藤 健一	耳鼻咽喉科部長
眼科	杉谷 和彦	眼科医師
放射線科	竹中 勝信	脳神経外科部長・放射線科部長

指導医（講習修了者）

科名	氏名	役職名	科名	氏名	役職名
内科	棚橋 忍	病院長	外科・麻酔科 救急科	白子 隆志	副院長・外科部長・ 麻酔科部長・ 救命救急センター長
内科	西尾 優	副院長・呼吸器科部長			
内科	白子 順子	内科部長・健診部長	外科	井川 愛子	外科副部長
内科	柴田 敏朗	内科部長	外科	佐野 文	外科部長・輸血部長
内科	浮田 雅人	医療社会事業部長・内科部長	小児科	山岸 篤至	小児科部長
内科	川上 剛	内科部長	小児科	川尻 美和	小児科副部長
内科	下地 圭一	消化器科部長	小児科	新井 隆広	小児科医師
内科	今井 奨	内科副部長	小児科	臼井 新治	小児科医師
内科	細江 敦典	呼吸器科副部長	産婦人科	脇田 勝次	産婦人科部長
内科	牧谷 光晴	消化器科副部長	産婦人科	石川 梨佳	産婦人科副部長
循環器内科	堀部 永俊	循環器内科部長	整形外科	前田 雅人	整形外科部長・ リハビリテーション科部長・ 中央手術部長
循環器内科	川口 智則	循環器内科医師			
泌尿器科	柚原 一哉	泌尿器科部長	整形外科	山本 孝敏	整形外科副部長
泌尿器科	南舘 謙	泌尿器科副部長	整形外科	喜久生健太	整形外科副部長
脳神経外科	竹中 勝信	脳神経外科部長・ 放射線科部長	整形外科	田中 領	整形外科医師
			検査(病理)	岡本 清尚	検査部長
脳神経外科	加藤 雅康	救急部長	耳鼻咽喉科	安藤 健一	耳鼻咽喉科部長
			皮膚科	市橋 直樹	皮膚科部長

協力病院・施設

協力病院・施設名	研修責任者氏名	役職名
医療法人生仁会須田病院	加藤 秀明	院長
名古屋第二赤十字病院	両角 國男	副院長
鳥取赤十字病院	西土井英昭	副院長
岐阜県飛騨保健所	杉山 貴広	所長
高山市国民健康保険 荘川診療所	柘植 智史	所長
高山市国民健康保険 清見診療所	中川 高行	所長
高山市国民健康保険 久々野診療所	松久 雄紀	所長
高山市国民健康保険 朝日診療所	廣瀬 良和	所長
丹生川診療所	土川 権三郎	所長
岐阜県赤十字血液センター	鬼束 惇義	所長
あらたに整形外科内科	荒谷 睦	副院長
国民健康保険 飛騨市民病院	黒木 嘉人	院長
高桑内科クリニック	高桑 薫	院長
陽光診療所	室賀 千英子	所長
高山赤十字介護老人保健施設 はなさと	時光 直樹	医師
水口医院	水口 宏平	院長
白川村国民健康保険 白川診療所	伊左次 悟	所長

教育・認定等

臨床研修指定病院（医科・歯科）	日本泌尿器科学会専門医教育施設
外国医師臨床修練指定病院	日本周産期・新生児医学会
地域医療研修センター病院	周産期新生児専門医暫定研修施設
日本救急医学会救急科専門医指定施設	日本周産期・新生児医学会
日本内科学会認定医教育施設	周産期母体・胎児専門医暫定研修施設
日本糖尿病学会認定教育施設	日本小児科学会専門医研修施設
日本肝臓学会認定施設	日本産科婦人科学会専門医制度研修指導施設
日本消化器内視鏡学会認定専門医制度認定指導施設	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本消化器病学会認定施設	日本気管食道科学会専門医研修施設（咽喉系）
日本血液学会認定血液研修施設	日本眼科学会専門医制度研修施設
日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設	日本皮膚科学会認定専門医研修施設
日本循環器学会専門医研修施設	日本栄養療法推進協議会NST稼働施設
日本整形外科学会専門医研修施設	日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設
日本外科学会専門医制度修練施設	日本静脈経腸栄養学会実地修練認定教育施設
日本外科学会認定医修練施設	日本病態栄養学会栄養管理・NST実地施設
日本消化器外科学会専門医修練施設	日本病理学会登録施設
日本乳癌学会専門医制度関連施設	日本医療薬学会認定薬剤師制度研修施設
日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練施設	日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設
日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院	

後期臨床研修

1. 位置付け

医師としての研修としては現在の医療水準、患者のニーズから見て、2年間の研修では医療の専門性に応えることはできない。したがって、総合的な診療能力を基本に専門性を修得した医師の育成が必要である。医師の研修を充実したものにするには後期臨床研修が必要である。

2. 目的・目標

初期研修終了後、希望する診療科にて専門医を育成する。

当院が置かれている地域性を考慮し、総合的な診療能力と専門性を有する医師を育成する。

- 1) 希望診療科および関連する学会の専門医を取得する。
- 2) 救急外来の診療を行い、総合的診療能力を高める。
- 3) 初期研修医の指導ができるよう修練する。

3. 研修概要

資格：初期臨床研修を修了した医師、およびそれに準ずると認められた医師。

募集：シニアレジデント、チーフレジデント共に全国公募とする。

期間：シニアレジデント：3年 専門医取得準備期間（内科医においては認定内科医取得を含む）
チーフレジデント：2～3年 専門医取得期間

研修：選択した診療科に関連する学会認定医・専門医などの資格取得が可能なプログラムに沿って研修をする。症例、医療技術、剖検、学会発表などの数値目標を設定し研修の内容を明確にする。臨床研修管理委員会にて認められた他の協力病院においても研修が可能である。

評価：各段階で評価し、到達目標に達した場合、修了証書を授与する。

終了後：チーフレジデント終了後優れたものにおいては、臨床研修管理委員会が各診療科と協議し病院長に常勤医として推薦する。

4. 研修プログラム

認定内科専門医、消化器病専門医、内分泌代謝科専門医、循環器専門医、糖尿病専門医、肝臓専門医、救急科専門医、外科専門医、消化器内視鏡専門医、消化器外科専門医、気管食道科専門医、乳癌専門医、小児科専門医、周産期専門医、整形外科専門医、脳神経外科専門医、脳卒中専門医、泌尿器科専門医、産婦人科専門医、眼科専門医、耳鼻咽喉科専門医、皮膚科専門医、放射線専門医、日本赤十字社認定研修医コース高山赤十字内科後期研修（内科・消化器科・循環器科・呼吸器科）

後期研修を見据えた選択を…

私は2年間の初期研修を終えて、外科の後期研修医として引き続き研修しています。毎年、後期研修医として残る人が増え現在は2名が研修しています。

当院の後期研修の特徴は、1つの専門性に偏らず幅広い分野を学ぶことができることです。例えば、外科の後期研修医は外科医としての手術だけでなく、救急や麻酔・集中治療なども多く担当します。内科の後期研修医は自分の専門分野以外の疾患を受け持つことも多く、他の専門分野をローテートすることも可能です。後期研修まで見据えた初期研修病院選びをするならば、当院をお勧めします。



後期研修医 Y.F.

当院の後期研修医（シニアレジデント）

平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
整形外科	整形外科 循環器内科 耳鼻咽喉科	内科	外科 (2名) 産婦人科	内科 産婦人科

後期研修医募集要項

研修期間	平成26年4月1日より平成29年3月31日（原則3年間）
募集人員	内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、皮膚科、産婦人科 …… 若干名
募集期間	平成25年10月1日～平成26年2月28日
応募資格	平成26年3月までに2年間の初期臨床研修を終了または予定の医師
試験	面接（試験日：随時）
処遇	身分：常勤 給与：3年目 約572,700円/月 賞与：3.95ヶ月/年（平成24年度実績） 4年目 約591,660円/月 賞与：3.95ヶ月/年（平成24年度実績） 5年目 約609,060円/月 賞与：3.95ヶ月/年（平成24年度実績） チーフレジデントについては別途お問合せください。
お問合せ	研修内容全般について：臨床研修管理副委員長 白子 隆志 募集について：総務課 臨床研修担当（田中） TEL：0577-32-1111（内線3361） FAX：0577-32-6802 E-mail：dr_kenshu@takayama.jrc.or.jp

病院見学・実習

医学生による病院見学・実習などの卒前研修を、随時受け入れています。
夏期、春期には特別に企画していますので、ホームページをご覧の上ぜひお申込ください。



- ・ 広大な飛騨地域の基幹病院！
- ・ 豊富な救急症例！
- ・ 研修医育成に実績あり！
- ・ 地域医療の最前線を経験できる！
- ・ 学生に対しても懇意な指導！
- ・ 日本有数の観光地・飛騨高山！

来たれ高山日赤に！

申 込 方 法

実習申込書をホームページよりダウンロードし、FAXまたは電子メールにて下記アドレスにお申込ください。実習決定後、大学学生課などにて「実習依頼書」を発行してもらい、病院長宛てに送付してください。

持 ち 物

白衣・名札（大学で使用しているもの）・聴診器・筆記用具など、必要と思われるもの。

実 習 内 容

研修医、指導医について実習を行います。実習時間は原則8：30～17：00です。救急外来見学は17：00～22：00です。実習日数については、相談に応じます。適宜指導医、研修医との懇親会を企画します。

宿 泊

病院の近くに宿舎があります。部屋にはバス、トイレ、冷蔵庫、電気ポット、寝具、机など生活用品完備。徒歩圏内にコンビニ、スーパーマーケット、コインランドリー、銭湯があります。日用品は各自でご用意ください。

申 込 先 ・ お 問 合 せ

〒506-8550

岐阜県高山市天満町3丁目11番地 高山赤十字病院 総務課 臨床研修担当(田中)

TEL：0577-32-1111（内線3361） FAX：0577-32-6802

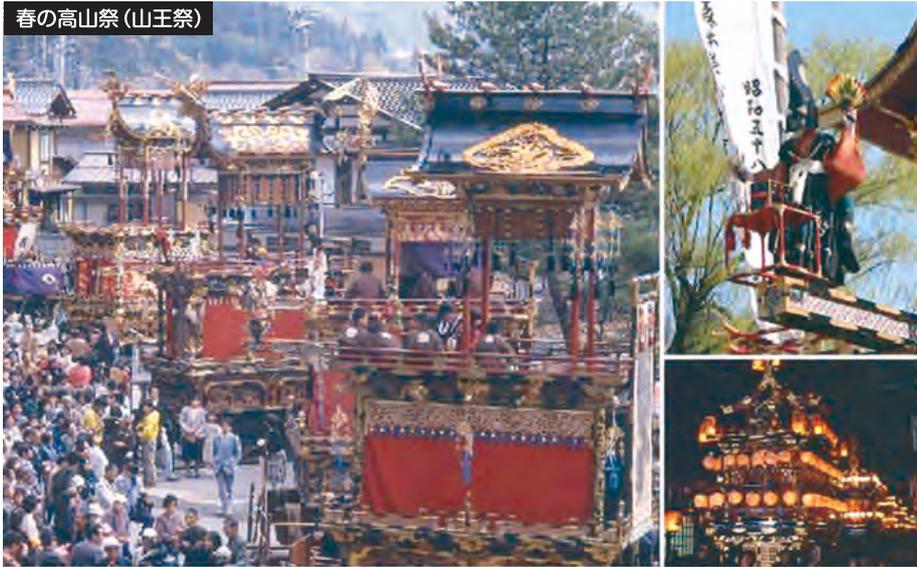
E-mail：dr_kenshu@takayama.jrc.or.jp

病 院 概 要

創 設	飛騨三郡立大野郡病院として明治 32 年 1 月 10 日創設																																				
創 立	大正 11 年 11 月 1 日 日本赤十字社に寄贈移管																																				
病 床 数	480床 (救命救急センター、未熟児センター、回復期リハビリ病棟を含む)																																				
診療科目	内科 呼吸器科 消化器科 循環器内科 精神科(心療内科) 小児科 外科 整形外科 脳神経外科 産婦人科 泌尿器科 皮膚科 眼科 耳鼻咽喉科 放射線科 リハビリテーション科 麻酔科 歯科口腔外科(歯科)																																				
職 員 数	合計805名(医師72名 看護師430名 他) (平成25年4月1日現在)																																				
付帯施設	訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、人工腎センター、健診センター、 外来点滴室、助産師外来、介護老人保健施設、事業所内託児所																																				
診 療 圏	高山市 92,685人 飛騨市 26,614人 下呂市 36,062人 白川村 1,755人 合計 157,116人 (平成25年3月1日現在)																																				
患 者 数 (1日当たり)		内 科	外 科	脳神経外科	精神科	整形外科	産婦人科																														
	入院	105	24	45	0	58	27																														
	外来	203	44	26	13	119	60																														
		眼 科	耳鼻咽喉科	小児科	泌尿器科	皮膚科	口腔外科																														
平成24年	入院	8	10	15	16	1	1																														
	外来	44	62	87	51	32	37																														
		放射線科	循環器内科	麻酔科			合計(人)																														
	入院	0	22	0			332																														
外来	10	39	1			828																															
機関指定	<table border="0"> <tr> <td>保険医療機関</td> <td>小児慢性特定疾患治療研究事業指定医療機関</td> </tr> <tr> <td>労災保険指定医療機関</td> <td>自動車損害賠償責任保険後遺障害認定病院</td> </tr> <tr> <td>指定自立支援医療機関(更生・育成)</td> <td>救急告示病院</td> </tr> <tr> <td>精神通院医療指定医療機関</td> <td>災害拠点病院(地域災害医療センター)</td> </tr> <tr> <td>身体障害者福祉法指定医療機関</td> <td>へき地医療拠点病院</td> </tr> <tr> <td>生活保護法指定医療機関</td> <td>地域がん診療連携拠点病院</td> </tr> <tr> <td>結核予防法指定医療機関</td> <td>地域周産期母子医療センター</td> </tr> <tr> <td>指定養育医療機関</td> <td>エイズ治療拠点病院</td> </tr> <tr> <td>指定療育医療機関</td> <td>臓器提供施設</td> </tr> <tr> <td>戦傷病者特別援護法指定医療機関</td> <td>マンモグラフィ検診施設</td> </tr> <tr> <td>原子爆弾被爆者医療指定医療機関</td> <td>地域医療支援病院</td> </tr> <tr> <td>原子爆弾被爆者一般疾病医療取扱医療機関</td> <td>災害医療チーム岐阜DMAT指定病院</td> </tr> <tr> <td>公害医療機関</td> <td>小児救急医療拠点病院</td> </tr> <tr> <td>母体保護法指定医療機関</td> <td>短期人間ドック実施病院</td> </tr> <tr> <td>特定疾患治療研究事業指定医療機関</td> <td></td> </tr> </table>							保険医療機関	小児慢性特定疾患治療研究事業指定医療機関	労災保険指定医療機関	自動車損害賠償責任保険後遺障害認定病院	指定自立支援医療機関(更生・育成)	救急告示病院	精神通院医療指定医療機関	災害拠点病院(地域災害医療センター)	身体障害者福祉法指定医療機関	へき地医療拠点病院	生活保護法指定医療機関	地域がん診療連携拠点病院	結核予防法指定医療機関	地域周産期母子医療センター	指定養育医療機関	エイズ治療拠点病院	指定療育医療機関	臓器提供施設	戦傷病者特別援護法指定医療機関	マンモグラフィ検診施設	原子爆弾被爆者医療指定医療機関	地域医療支援病院	原子爆弾被爆者一般疾病医療取扱医療機関	災害医療チーム岐阜DMAT指定病院	公害医療機関	小児救急医療拠点病院	母体保護法指定医療機関	短期人間ドック実施病院	特定疾患治療研究事業指定医療機関	
保険医療機関	小児慢性特定疾患治療研究事業指定医療機関																																				
労災保険指定医療機関	自動車損害賠償責任保険後遺障害認定病院																																				
指定自立支援医療機関(更生・育成)	救急告示病院																																				
精神通院医療指定医療機関	災害拠点病院(地域災害医療センター)																																				
身体障害者福祉法指定医療機関	へき地医療拠点病院																																				
生活保護法指定医療機関	地域がん診療連携拠点病院																																				
結核予防法指定医療機関	地域周産期母子医療センター																																				
指定養育医療機関	エイズ治療拠点病院																																				
指定療育医療機関	臓器提供施設																																				
戦傷病者特別援護法指定医療機関	マンモグラフィ検診施設																																				
原子爆弾被爆者医療指定医療機関	地域医療支援病院																																				
原子爆弾被爆者一般疾病医療取扱医療機関	災害医療チーム岐阜DMAT指定病院																																				
公害医療機関	小児救急医療拠点病院																																				
母体保護法指定医療機関	短期人間ドック実施病院																																				
特定疾患治療研究事業指定医療機関																																					

飛騨高山 & 周辺案内

春の高山祭(山王祭)



高山祭

春の山王祭と秋の八幡祭、二つの祭りを合わせて「高山祭」と呼びます。日本三大美祭の一つにも数えられ、期間中市内は20~30万人もの観光客でにぎわいます。

飛騨高山

市内には江戸時代からの城下町、商家町の姿が保全されており、その景観から飛騨の小京都として知られています。日本の原風景を残す町として、近年は外国人旅行者の数も増加しています。仏ミシュランの実用旅行ガイドでは、日本必見の観光地として三つ星を獲得しています。



中橋遠景



高山市遠景



古い街並み



手筒花火大会



白川郷(世界文化遺産)



北アルプス大橋



新穂高ロープウェイ



乗鞍岳



朴の木平スキー場



奥飛騨温泉郷



穂高連峰



上高地



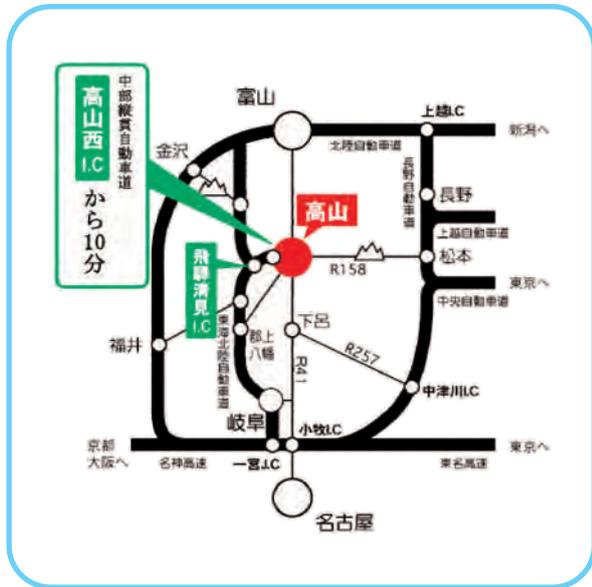
飛騨大鐘乳洞

国内有数の観光地が貴方を待っています。

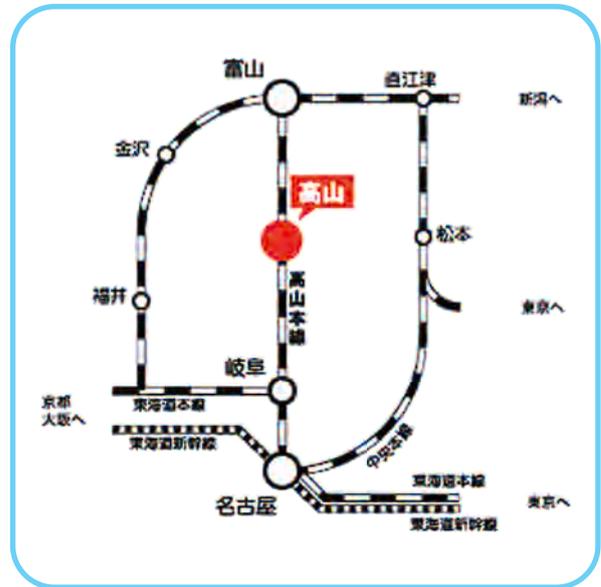
周辺地図
交通
アクセス



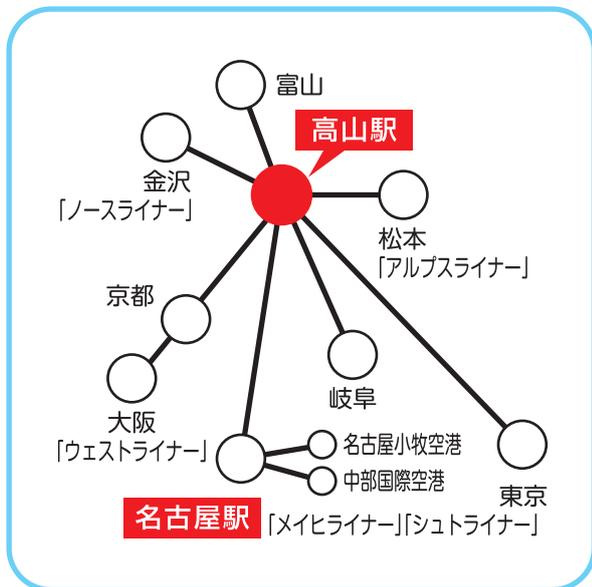
車利用



電車利用



高速・特急バス利用



医師臨床研修のご案内
(平成26年度募集)

発行：高山赤十字病院
住所：〒506-8550
岐阜県高山市天満町3-11
TEL：0577-32-1111 (代表)
FAX：0577-32-6802
HP：www.takayama.jrc.or.jp
編集責任：臨床研修管理委員会
E-mail：dr_kenshu@takayama.jrc.or.jp